

# アメリカ西海岸周遊記

星 俊臣 (横浜市)

期間：2010年9月29日～10月12日 (14日間)

費用：48万円+17万円 (現地費用：交通費、  
ホテル、食事、お土産)

為替レートは84円/\$ (購入レートは87円/\$)

\* 帰国後81円台に下がり若干損した気分になるも、昔に比べたら格段に安価な旅行になったと思う。

## はじめに

本会での活動実績はほとんどなく、皆さんにもお会いしたこともないかと思いますが、今回神山理事長からの要請もあり、これを契機に皆さまとお知り合いになれ、また本報告が何らかのご参考になれば幸いに思いペンをとることにいたしました。

このような背景から、旅行会社の企画するような旅ではなく、家内と友人夫妻だけでの思い通りの気ままな、かつ特異な状況下での非常に思い出の深い素晴らしい旅行になりました。

## 1) 旅行の動機

この7月、44年の会社勤めから離れ (実際は顧問として厄介になっていますが・・・)、これを契機に自分への慰労と家内への感謝の気持ちの意思表示、そして身体の動くうちに、海外の友人と会っておきたいという願望から、今回の大型旅行を考えました。

## 2) 旅程

旅程は国内ではほとんど決めず、現地で決めることで友人とメールで打合せして、次のとおりになった。ただ、ラスベガス観光は友人宅から遠く、家内の要望もあったので、ここの旅程だけは個別に購入し予約等をした。

- 9/29 成田発、  
サンフランシスコ経由ラスベガス (泊)
- 9/30 ラスベガス市内観光 (泊)
- 10/1 グランドキャニオンスカイビュー ⇒  
ラスベガスホテル (泊)
- 10/2 ラスベガスからシスコへ移動。  
Santa-Cruz 友人宅訪問・滞在 (泊)
- 10/3 友人と旅程打合せ、友人の案内でペブルビーチ等近隣のワイナリー試飲、観光地散策

- 10/4 モントレー他南カリフォルニア観光、  
友人宅泊
- 10/5 ヨセミテ国立公園観光 (モーテル泊)
- 10/6 タホ湖観光“CAL/NEVA”ホテル泊
- 10/7 タホ湖畔周遊ドライブ、友人宅泊
- 10/8 NAPA バレー ワイナリー観光 (シスコ泊)
- 10/9 サンフランシスコ市内バス観光 (泊)
- 10/10 迎えに来た友人とサンフランシスコ市内ドライブ後友人宅へ。サヨナラディナー (泊)
- 10/11 レッドウッドツリーの森を見学、ドライブしながらサンフランシスコ空港へ  
シスコ発 13:30
- 10/12 成田着

## 3) グランドキャニオン渓谷ツアー

成田からサンフランシスコ空港経由でラスベガス入りとなったが、空港で5時間近くの乗り継ぎ待合せがあり、そこで食べた昼食ラーメンのチャーシューに問題があったのか、この日の夜から食事がとれなくなってしまった。ラスベガス空港では空港からホテルまでの案内役がBGクレームに来ており (どこの空港でも靴まで脱がされる搭乗時セキュリティの厳しさに比べ、日本と違い簡単にここまで入れるらしい)ピックアップしてもらった。ホテルでは別のチェックインだけの案内役がいて引き続いて予約までしてくれた。



グランドキャニオン展望ポイントで

チェックイン後、お腹の具合が悪いことを除き、何の心配もなくすぐ、夕食と夜のラスベガス市内見物に繰り出し、明日のグランドキャニオンツアー待合せ場所も確認した。ベガスの夜の街は皆さんもご存じの通りで、あちこちで様々の催しが行われ、多くの観光客が繰り出していた。カジノは遊び方を知らないとなかなかつまらない。いたずらに見返りなしの投資が続くことになった。行く前にこの勉強をしておくべきことを反省した。



Lake Tahoe CalNeva Pan

翌日のツアーは予定通り送迎バスに乗り、セスナ機搭乗手続きをしてグランドキャニオン空港に降り、バスで観光スポットに案内されるものだったが、そのスケールの大きさと景色の壮大さはまさに言語に絶するものであった。ところが、更にすばらしい景観のスポットがあるとガイドが案内して歩き始めたその時、俄かに空がかき曇り、雷鳴が轟き、なんとそのガイドのすぐそばに落雷した！まさに火の玉が落ちた印象で、ガイドも驚きすぐさま屋内の博物館等の見物に変わってしまった。確かに誰にも被害がなかったのは運がいいが、本音はいいのか悪いのか疑った次第である。ここではよく落雷するというガイドの説明通り、命を大事にされる方は、雷雲が近い時は避難することをお勧めしたい。

また、ここにはかわいい地リスがいる。ガイドは餌をあげることも2m以内に近づくこともしてはいけないという。咬まれてけがをすると高価な狂犬病予防の注射をされ、罰金250\$となって、咬まれた痛さ以外に相当の懐の痛みを味わうとのこと。注意されたし。

#### 4) サンフランシスコ空港から友人宅へ

ラスベガスのホテルに荷物を預け、午前中はさらに市内観光と昼食をとった後、空港からサンフランシスコに向かい、サンフランシスコ空港のBGクレームで友人にピックアップしてもらった。

友人宅は空港から車で約1時間半のSanta-Cruz郊外の見晴らしのいい丘の上にあり、80㎡位の自宅1階の1室(マンションそのもの)を借り数日お邪魔することになった。その夜は、奥様の手作りディナーをいただきながら明日からの旅程打合せとなった。

翌日は、あまり天候は良くなかったが、友人の運転でご夫妻と共に有名なペブルビーチからカリフォルニア南部モンレー周辺の観光地のドライブを楽しんだ。この海岸地区一帯は高級住宅地だそうで、いわゆる億ションの瀟洒な戸建ての家が続いている。

この南の地区は岩場の海岸が多く樹木はほとんどが松の一種であるが、土のほとんどない中で、その岩

場だけの島に力強く生きる“Lone Cypress”と呼ばれる木のある名所もある。大変海岸の美しい観光地で訪れる人も多かった。

以下は、帰国時空港に向かう時のことであるが、友人宅から北東に車で1時間くらいのところにレッド・ウッド・トリイフォレストと呼ばれる森があり、観光地にもなっているところに連れて行ってもらった。

その木の大きさは直径3m、高さ80mにもなり、3000年も経つものもあるとのこと。4.5畳ほどの広さの洞のある木も生きていた。古代人はこの中で生活もできたであろうと思わせる大きさである。訪れた時は10月初めで季節外れのせいか観光客は1人もいなかったが、清廉な空気と静寂、行く途中にあるトルーマン大統領も訪れたという自然の小川を通した古風なレストラン等、見る価値の多い場所でもあった。道路が狭く、観光バスは行けそうもないので格好の穴場かもしれない。

#### 5) ヨセミテ国立公園

ここはあまりにも著名な観光地ゆえ行かれた方も多いと思うので省略したい。ただ、この地域は季節により霧が多く、なかなかすっきり晴れた景色を見られる日は少ないようで、我々の訪れた時も平野では快晴だったのに山に近づくにつれ雲が多くなり、地域全景を遠望するチャンスは本当に少なかった。その中で運よく、夕方霧の晴れた一瞬をかの有名なグレイシャーズ・ポイントで迎えることができた。夕焼けに染まる足下の雲海と遠くの山並み、ズンと聳えるハーフムーンの山、そして眼下に夕焼けの霧を背景にしたグレイシャーズ・ポイントとすばらしい景色にふれることができて大満足であった。ここで美しい光景を見るためには、ある意味“ネバル”ことが必要かもしれない。訪れる方は十分な時間のゆとりを持って、公園内にあるホテルに泊まるのが良いかと思う。しかし、このホテルは非常に割高で我々はここから次の目的地タホ湖に向かうので、この後2時間程ドライブして途中の町のモーテルに宿泊することにした。このモーテルは予約なし、バスなしシャワー付、朝食付の部屋が2人でわずか24\$と非常に安価であった。

## 6) タホ湖周遊ドライブ

ここはサンフランシスコから車で約4時間。結構距離があるが、その季節にはサンフランシスコから観光バスが出ているらしい。しかし、我々の訪れた時は季節はずれなのか、ほとんど観光客はいなかった。お蔭で素晴らしいホテルの部屋を確保することができたようだ。タホ湖を見渡す高台に立てられたこのホテルが大変ユニークで、カリフォルニアとネバダ州の州境に跨って創設200年を越す深い歴史を持ち、フランクシナトラ、サミー・デービス Jr、ディーンマーチン等、著名人や芸能人が常宿にしてディナーショーをしていたところとのこと。私は知らなかったのだが、カリフォルニアではカジノは禁止、ネバダではOKとのことで、同じホテルの中で、ネバダ側にだけカジノがあるのである。プールの中央にも州の境界線がクッキリと明示してあった。ちなみにホテル代も非常に安く、8階のスイートが3人で150\$と驚いた次第である。

夕方、部屋から見下ろす夕焼けにけむる湖畔の景色を見ながら軽くたしなんだワインの味は格別であった。夜はレストランで我々1組だけのディナーを楽しみ、その後隣のカジノで無意味な投資をし、部屋に戻ってゆっくり友人と酒を飲みながら語り合えたことは、これからも深い思い出として私の中に残ることだろう。ここに来て本当によかったと思うひと時であった。

翌日は、湖畔を散歩した後、1組だけの静かな朝食を取りチェックアウトして湖畔のドライブに出かけたのだが、この時熟年の観光客の方がバスで乗り付けて来た。この時期といえども全く客がないわけでもないようである。湖畔の南側（カリフォルニア側）はシェラネバダ山脈が連なり滝や島が見下ろせる観光ポイントもあり、美しい自然の眺望であった。湖畔を半周するとネバダ州側に入るが、入った途端に建物は高層ビルが多くなり、それらは全てホテルでその1階はカジノになっているとかで、観光客も多かった。この近くにはスキー場が多く、1960年スコーバレー冬季オリンピックが開催された場所もあり、その跡地がまた観光化されており、ちょっと寄って見たが、季節的に中途半端な時期でほとんど客はいなかった。

タホ湖の北側にはあまり見る所もなく、この日は友人宅まで5時間かけて帰る予定なので、少々早めに観光を切り上げ帰宅の途についた。夕方5時には着く予定で帰路を急いだが、ほとんど経験しなかったアメリカの高速道路でもサクラメントを抜けサンフランシスコ市街を避けて通ろうとしたが、日本並みの渋滞に巻き込まれた。やはりサンフランシスコは大都会でこうなるのだそうだ。

## 7) ナパバレーワイナリー見学

翌日、友人夫妻とともに約2時間かけてナパワイン試飲とワイナリー見学に出かけた。この地域はあまりにも著名であるせいか相当に観光化されており、観光客もかなり多くワイナリー見学等よかった半面、ナパのイメージは半減した。ロバート・モンダビワイナリーでは、ブドウ畠での摘み取りからワインのできるまで工場内を案内した後試飲できるコースがあり、これに参加した。順番待ち約40分、見学料1人49\$とワイン工場見学にしては南部のワイナリーと比べるとかなり割高に感じられた(因みに南部では同条件で5\$)。この他にもワイン列車等目を引くものもあるが、既に皆さんご存知と思うので以下は省略する。



モントレイワイナリー試飲

他のワイナリーでも試飲（ここは10\$）したり、昼食をした後、ナパバレーを後にし、サンフランシスコに向かう。入江を挟んでサンフランシスコに入るゴールデンゲートブリッジの袂の海辺サウスリート地区に“The Spinnaker”というレストランがある。これがまたすばらしい！サンフランシスコ市街の対岸にあり、たまたまた夕刻に夕焼けに染まる有名なアルカトラズ島やエンジェル等の遠貌が見られ、ヨットや観光船の行き交う光景を目前で見ながらのディナータイムに窓際のいい席も確保できた。ここでの景色とワイン、また料理も大変美味しかったことが忘れられない。

サンフランシスコでさらにお勧めのポイントとして、ゴールデンゲートブリッジの裏山に当たる場所からの橋とサンフランシスコの夜景もあり、これまた絶景である。夜9時頃には彼が事前に予約しておいてくれたフィッシャーメンズ・ワーフ近くのホテルまで友人夫妻に送ってもらい、素晴らしい1日を目に浮かべながら眠りについた。





サンフランシスコ市街とゴールデンゲートブリッジ

## 8) サンフランシスコ市街散策

翌日は市街の観光バス（日本語ガイドホーン付）に乗り、2時間の予定が道路混雑のため3時間かけて、一通り著名な場所を観光した。ここで初めてサンフランシスコ市の名称や歴史を聞く。当初のカリフォルニアはスペインの統治下にあったとのことで、そここの地名や建物にはスペインの名残が多いことに納得した。天気が良かったこともあり、観光ではサンフランシスコ七曲りの坂ロンバートストリート（有名な場所らしく朝早くから多くの観光客が来ていた）の他、南東の電波塔のある丘からの眺望は心を癒してくれるものであった。

しかし、これ以外にもさらに素晴らしい景色の見える場所が市の北東の丘にあり、迎えにきた友人がそこに連れて行ってくれた。ここには観光バスも一般観光客も来ないとかで、左に遠くゴールデンゲートブリッジが望め、右にオークランド橋、眼下にサンフランシスコ港が見渡せる。若いカップルや犬を連れた散歩者、絵を描いている者等市民の憩いの場所になっているようだ。また、七曲りの坂ならぬ市内で最も急な坂道という場所もあり、この辺りからの眺めも素晴らしい。これも一般には知られていない推奨の場所と思う。この日フィッシャーマンズワーフでは、偶然にもブルーインパルススカイショーも行われていてすごい人出で賑わっていた。これを観賞しながらワーフでの昼食を楽しんだ。夕方からは予約しておいたサンセットクルーズに出かけ、美しい島々や夕闇に染まる前述したレストラン“The Spinnker”のまん前を通る海からの景色を堪能することができた。

翌日には待望の路面電車に乗った。乗り心地はよくないが、そのシステムが面白い。直線的な路線しかないため終点のターニングポイントでは人が身体で押して電車の向きを変える。また急な坂での道路混雑時に

は、途中からの発進ができず一旦平らな場所にバックで戻り、そこから勢いを付けて上り直す等、今の時代ではマンガのような光景が見られる。



サンフランシスコ市内の路面電車の人力方向転換

他に有名なチョコレートの店“Ghirardelli”に立寄ってバナナチョコレートファッジを1個オーダーしたが、その量の多さには驚いた。家内と2人で食べてちょうどよい。日本の2倍の大きさである。注文の時は留意されたい。こうして友人の迎えに来た車で想い出を語りながら自宅に帰り、その夜は4人で盛大な手作りさよならパーティを楽しんだ。

## 9) おわりに

最後に、あらためてこんなに終始自分の仕事を捨てて対応してくれた友人に心から感謝している。つくづく持つべきものは良い友達であり、生涯の同胞でもある。特に若い先短いこの年になれば心の支えにもなってくれる。本会でのお付き合いは極めて少ないが、これから先お互いにこのような心触れ合える死ぬまでのお付き合いができればこんな嬉しく頼りになることはない。残された短い元気な時間をできるかぎり多くの方々と心のお付き合いができることを期待して稿を閉じる。これからもよろしくお願いします。

追伸：米国西海岸旅行は、9月が混雑なく最適です。